

# かけ橋

第 29 号  
編集・発行  
願船坊  
R2年 11 月



十月二十二日(木)、本当に久しぶりにご講師の先生にお越し頂きまして仏教婦人会法座を勤修いたしました。

安芸教区の宗会議員で光乗寺(五日市)ご住職の渡邊幸司先生をお呼びして講題『浄土を願って生きる』と題して、お聴聞させていただきました。

かつて後鳥羽上皇の時に念仏弾圧が行われ、それにより、法然聖人及び親鸞聖人の流罪、また門弟の方々の死罪など、謂れの無い仕打ちを受けられたことでした。親鸞聖人はこの事に対してひどくお怒りになられて、そのことは御伝鈔にも書かれています。その後鳥羽上皇は厳しい処罰を下されたお方ですが、のちに鎌倉幕府が天下を取り、遂には都も追い出されていき、最後は隠岐の島にて最期を遂げられるのですが、その上皇が最期には阿弥陀仏の救いを求めていかれたということでした。そして、世の無常を感じられたのでしようか、親鸞聖人の兄弟子の聖覚法印から阿弥陀仏の本願を聞き、浄土往生を願うようになりました。その最期の著書『無常講式』に書かれてあった内容を一部引用して作られたのが蓮如上人の『白骨の章』である、という史実に触れられた際、先生は身震いするほどの感動を覚えられたということでした。正にここに浄土を願って生きていかれた証があったわけですね。

昨今はお説教のお参りが少ないと言うことがいるんところで聞かれますが、先生は、これはある意味仕方がないことだ

と言われておりました。これは平和であることの証であるとおっしゃいました。

ひと昔前は本堂がいっぱいになるほどお聴聞のお参りが多かったのですが、実は大正の時代は比較的平和な時代だったせいも、お参りはそんなに多くなかったそうです。それが戦後の時代、戦争や原爆でたくさんのお肉親を無くされた方々が、人生無常の理を我が事としてたくさんの方がお聴聞されました。ここに最愛の方のお別れを縁として浄土往生を切に願う気持ちの中で生きておられた証が「よく見た光景 なまんだぶを連呼するお年寄り」の姿として私も少し前の記憶にしっかりと残っております。

ですが、その後ご遺族の方が高齢になられ、それにつれて次第にお参りが少なくなっていくことは必然的なことで、仕方ないと思えます。というお話をされました。

今の世はどうでしょう。突然のコロナ禍で、世界中が恐怖と先の見えない不安でいっぱいになっていきます。そんな時代だからこそ、お聴聞が必要とされるのではないのでしょうか。久々の生でのお聴聞をさせて頂きながら、やっぱりお聴聞は良いなあとしみじみ思わせて頂いたことです。

合掌



## 住職のひとこと

皆様いかがお過ごしですか？コロナ禍で、外出も買い物もお散歩も出にくくなった方もいらっしゃるのでは、と思います。意識的に身体を動かした方が良いとテレビでも言っております。今は外が気持ち良い季節ですので、少し外に出てみて下さいね。お寺では、前任職が以前からパーキンソン病を患っておりましたが、今秋に突然病が進み、自宅での生活がままならなくなりましたので、現在施設でお世話になっております。様々な業種の方とのご縁で、本当に良くして頂いております。有難いことです。また、そのようなことで、今年の報恩講参りのご案内が遅れておりますこと、誠に申し訳ありません。順次お知らせをさせて頂き、お参りさせて頂きますので、今しばらくお待ち下さい。今回はコロナ禍のため、お参り時間を短くさせて頂きます。チェロ演奏も控えさせて頂きますので、どうぞご了承下さい。

## 第十五回平和コンサート

今年の平和コンサートは、コロナ禍での開催でしたため、二回公演に分けて各回限定四十名様でのコンサートを開催いたしました。皆様、久々の生の音楽に生き返ったようだとお喜びでした。医療従事者の方々への義援金箱を設置しましたところ、四万円の義援金が集まりましたので、次の日に安佐市民病院へ持って行かせて頂きました。



## ☆お知らせ☆

秋供養・報恩講法要（浅野 執持師）

十二月三日（木） 昼席・夜席

四日（金） 朝席・昼席

（※今年は、おときはありません）

ゆく年くる年コンサート

十二月三十一日（木） 夜九時より

除夜会 十二月三十一日（木） 夜十一時四十五分より

修正会 一月一日（金） 朝十時より

御正忌法要（住職自勤）

一月十五日（金） 昼席・夜席

十六日（土） 昼席

《再開しています》

☆朝活（朝コン） 毎週水曜日 朝六時半～七時

☆仏教壮年会 毎月第二水曜日 午後七～九時

☆仏教婦人会 毎月十六日 午後一時半～三時

《今しばらくの休止です》

☆コールKUSHIRA ☆日曜学校

お寺のホームページです。  
<http://www.gansenbou.com>

